

法定協廃止動議に賛成

山中市議「都」構想は道理なし

維・公が否決

大阪市を廃止して特別区に分割する「大阪都」構想の制度設計を再び話し合う、第12回大都市制度（特別区設置）協議会（法定協）が1日、大阪府庁で開かれ、同協議会の廃止を求めた自民の動議を維新、公明の反対で否決しました。

採決に先立ち各党が意見表明。日本共産党の山中智子市議は、この間の議論で「大阪市の廃止・分割がいかにも道理のないものであるかが、はっきりしてきた」とのべ、四つに分割される特別区については、「人口規模にお

いてもニアイスベター（住民に近い行政）は看板倒れ、何より膨大なイニシャルコスト（初期費用）、ランニン

グコスト（維持費）がかかって、住民サービスは悪くなるざるを得ない」と主張しました。

山中市議は「まさにメリットは皆無、あるのはデメリットのみ。百善あって一利なし、地方自治の破壊極まりということだ」と指摘し、「これ以上議論を重ねても意味がない」と、動議に賛成を表明しました。



協議会廃止の動議を否決した第12回法定協議会1日、大阪府庁